



市長 町田さんの「コンビニ兄弟」5作目が11月28日に発売されて、いよいよドラマ化も発表されました。北九州市にとつても大きなことですし、本当にうれしいことです。

町田さん (以下、敬称略)夢みたいで、半信半疑の気持ちもあります。「コンビニ兄弟」を書き始めた時はまだ新人で、誰も私の本を読んでいないのではないか、と不安に駆られていました。地元の魅力を書けば他の地域の作家さんよりうまく書けるのではないか

まちと人のおせっかいな

優しさを、北九州市から

門司港を舞台に、人と人との関わり合いを描く小説「コンビニ兄弟」シリーズが、NHK総合でこの春、ドラマとして放送されます。本屋大賞受賞作「52ヘルツのクジラたち」などでも知られる北九州市ゆかりの作家・町田そのこさんが、地元の魅力をぎゅっと詰め込んだ物語です。武内市長と町田さんが、「コンビニ兄弟」に込めた思いや門司港・北九州市のまちの魅力、本や物語がくれる小さな光について語り合いました。



町田そのこさん・作家

1980年福岡県生まれ。2016年『カメルーンの青い魚』で「女による女のためのR-18文学賞」大賞を受賞。翌年、同作を収録した作品集『夜空に泳ぐチョコレートグラミー』でデビュー。2021年、『52ヘルツのクジラたち』で本屋大賞を受賞。北九州市文化大使。



市長 日常に溶け込んでいるからこそ、そこに一番人ととの関係が浮き彫りになります。すいんじやないかなと思ってます。

町田 確かにコンビニって、声をかけ合つてつながることもある一方で、それぞれが距離を置いて関わらない姿もありますよね。その舞台になっているのかもしれません。

市長 人と人とのつながりって加減がとても難しいですね。ともすれば「おせっかい」とも言われる気遣いもある。でも、「あの人への手助けがしたい」という気持ちが尊いことに変わりはない。そういう心を作品に込めていくつもりです。

市長 あらためて、「コンビニ兄弟」という作品で表現したかったことを教えていただけますか。

町田 「コンビニから見える、人と人とのつながり

門司だけではなく北九州市の皆さんにも読んでいただきたい。そして、北九州市・門司の持っているまちの魅力や、人の関わり合いの素晴らしさを思い起こすきっかけになればと思っています。

市長 門司港のまちの魅力は、どんなところにあると思いますか。



「逃げ込めた」門司港という場所

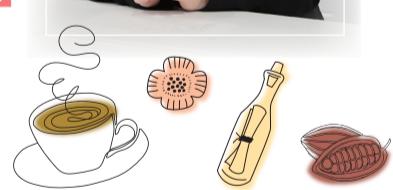
「コンビニ兄弟」がドラマ化されます!

・NHK総合にて今春スタート!



▲詳細はコチラ
(NHKホームページ)

問 都市ブランド創造局MICE・
メディア芸術課 ☎ 551-8152



私は学校で授業についていけない時、門司港に行つてたんです。海を見ながらお弁当を食べて本を読んで。家には帰れないし学校に行きたくない……それを、私には居場所がないのだと思っていました。自分の情けなさやふがいなさ、みっともなさと向き合う場所が門司港だったんです。そんな門司港は「つらさから逃げ込める場所」でもありました。私の負の感情をただ受け止めてくれるというか……。私の思ふ門司港の魅力は「どんな感情を抱いていても受け入れてくれる場所」ですね。

1月31日
まで!

門司港レトロ30周年記念 「コンビニ兄弟」タイアップ企画

門司港レトロ地区では、町田さんの人気小説『コンビニ兄弟 テンダネス門司港こがね村店』シリーズ(新潮文庫nex刊)とタイアップした企画を開催中です。



▲アート展示(門司港レトロ展望室31階、関門海峡ミュージアム1・4階)



▲特設サイト
はコチラ

(門司港レトロ展望室1階)



▲フォトスポット
(門司港レトロ展望室1階)



▲オリジナルグッズ
(門司港レトロ展望室31階)

問 門司港レトロ総合インフォメーション ☎ 321-4151

「コンビニ兄弟」が
本屋大賞×JR西日本presents
「ほな西へいこか本大賞」
を受賞!



◎町田そのこ／ふすい／新潮社

・読むと西エリア(※)のどこかへ旅にでかけたくなる日本の「文庫本」小説が対象
※関西・北陸・せとうち・山陰・九州

町田先生
質問です!

「何か希望が欲しい」と悩みを抱える人にお薦めしたい、自身の作品は?

『あなたはここにいなくとも』という短編集がいいです。人生でなんかうまくいかない、私はどうしたらいいんだろうっていう時に人生の先輩であるおばあちゃんが必ず現れて、手を引いてくれたり背中をたたいてくれたりする物語です。北九州市も出てきますよ。



あなたはここにいなくとも
著／町田そのこ
新潮社